

令和4年度 すくすくウオッチの分析

すくすくウオッチの概要

河内長野市立三日市小学校 5年生

国語

評価の観点別	学校の平均正答率
知識・技能	81.0
思考・判断・表現(書くこと)	78.5

概要

深く読み取りをしなければ解答できないような読解力を求められる問題はほとんど出題されず、知識を問われる問題が大半を占めていた。そのため、平均正答率は本校が81%、大阪府平均も77%とかなり高くなっている。

特に成果が見られた問題例

「書くこと」に関する区分では、授業で自分の考えを書いたり、日記を書いたりしていることが成果として表れた。2(2) 誤って書かれた助詞を正しく直す問題は、95%を超える正答率であった。一つひとつの言葉の意味を丁寧に押さえたり、読み取るポイントや見方を伝えたりしてきていることで、文章の意味を頭の中でイメージしながら読むことができていると思われる。

特に課題が見られた問題例

5(1) ことわざ「雨降って地固まる」の意味を選択式で答える問題では、正答率が22%と他の設問に比べて大きく落ち込んでいる。おそらく文字の通りに意味を捉えてしまっている児童が多かったと推察される。ことわざは授業内で扱う時間も少なく、さらに授業で出てくる範囲外となると、調べたり興味をもったりする児童はより少なくなる。モジュールの時間を利用してクイズにするなど、児童がことわざや故事成語などの伝統的な言語文化にふれる時間をとることも必要であると感じる。また、図書館司書とも協力してことわざや故事成語にふれる機会を増やしていきたい。

算数

評価の観点別	学校の平均正答率
知識・技能	49.2
思考・判断・表現	41.7

概要

平均正答率が50%を下回り、他教科に比べるとかなり低いものの、全ての分類において大阪府の平均を上回り、平均正答率は、大阪府と比べ7.7%高かった。特に「記述式問題形式」「思考・判断・表現の観点」は、大阪府と比べ12%高かった。授業で自力解決の時間にたくさん書く経験を積み重ねてきたことが成果として表れてきている。

特に成果が見られた問題例

図形の領域は正答率が51%であり、大阪府と比較すると14%高かった。2(1) ブロックが何個必要かという問題では正答率が70%を超えていることから、平面だけでなく、見えない部分もイメージ化し、図に表すことで立体的に図形をとらえることができている。また、問題の「重なったり離れたりしないように」という条件までしっかりと見落とさず読み取れていることがわかる。

特に課題が見られた問題例

2(2) 縦と横のブロックの数を表した表を見て、その規則性を考え、その関係性を式に表す問題は、正答率が31%と、準正答がない問題の中では一番低かった。文章問題を解くとき、必要な情報に着目し何を求めるための式なのかを考えることが大切である。立式をする前に、必要な情報に線を引いたり、色分けをしたりするなど視覚的に立式のヒントとなるような手立てを講じていきたい。

理科

評価の観点別	学校の平均正答率
知識・技能	79.7
思考・判断・表現	85.7

概要

3・4年生の既習事項の基礎的な知識や、結果から考察するような基礎基本に忠実な問題であり、平均正答率は大阪府平均を8.6%上回った。また、記述式の問題は準正答率を含めると94.5%と正答率が高く、粘り強く考え、それらを記述する力がついていることが結果からわかった。

特に成果が見られた問題例

1(1)風の力に関する問題は正答率92%、(2)電気の力に関する問題は正答率95%と、3・4年で実験した問題は昨年度と同様に理解できていた。

特に課題が見られた問題例

大まかな内容は理解しているものの、言葉とそれを表す図を関連付けたり、道具の使い方の条件などをきちんと理解したりするところに課題が見られる。2(1)気温の測り方の正答率が低く、準正答率が高かった。これらの活動は子どもの印象に残りにくい活動であることが多い。また、「すべて」選ぶといわれて、4つのうち3つを選択する経験も少ないため戸惑いがあったとも考えられる。普段の実験より、「なぜそうするのか」や「何のためにするのか」を考察させたうえで、実験に取り組みせたり、学習用語を学ぶ際に図も一緒にかかせたりすることで、深い学びにつなげていきたい。

すくすくウオッチ (教科横断的な問題わくわく問題)

観点別	学校の平均正答率
A 図や表、グラフ、短い文章、会話文等の内容を関連付けて、正しくとらえる。	52.6
B 図や表、グラフ、短い文章、会話文等の内容を関連付けて、それをもとに論理的に考える。	76.1
C 図や表、グラフ、短い文章、会話文等の内容を関連付けて、それをもとに新たな課題を考える。	79.4
D 図や表、グラフ、短い文章、会話文等の内容を関連付けて、それをもとに自分の考えをまとめ、伝える。	71.8
E 興味関心のある事からについて、意欲的に工夫して相手に伝える。	86.2

概要

条件を理解した上で整理して考察しなければ解答できない問題や、問いの条件に沿って記述して解答しなければならない問題であり、普段から論理的に思考する経験が少ない児童にとっては難易度の高い問題であったと考えられる。

特に成果が見られた問題例

リーフレットから適切な語を選び、学年のみんなに呼びかける記事を書く問題では、準正答を含めると97%の児童が正答できた。図や表の読み取りや記述などといった本来正答率が低くなるような学習において、平均以上の正答率を取っているのは、普段から新聞を書いたり、まとめたりした経験を活用することができているからであると推察される。高学年に至るまでの取組が実を結んでいるので、今後もこういった体験活動を進めていきたい。

特に課題が見られた問題例

3(1)学校生活でみられる課題を整理し、残された課題を解答する問題の正答率が5.5%と非常に低かった。文章を論理的に思考することは比較的できているものの、言語を駆使して表現することに慣れていない児童が多いことが考えられる。今後たくさんの資料やグラフを読み取り、伝えたいこと(必要なこと)を、文章にまとめたり、新聞作りをしたりする時間を大事にしていきたい。

児童アンケート

特に成果が見られたアンケート項目例

40 「その時間に学んだことについて振り返りをしている」という項目では、肯定的な回答をした児童の割合が83.5%となり、そのうち「あてはまる」と回答した割合は、大阪府と比べて14%も高い結果となった。普段から学習を振り返ることが、授業の学習の流れとして定着している成果が表れていると考えられるので、今後も継続していくことで深い学びにつなげていく。

特に課題が見られたアンケート項目例

27 「先生は、あなたのよいところを認めてくれている」という項目では、肯定的な回答をした児童の割合は93.5%と高いものの、「あてはまる」と答えた児童は本校の昨年度の5年生、府の平均に比べて下回る結果となった。これは、子どもたち自身が自分の頑張りを先生から認めてもらいたい、もっと褒めてほしいという気持ちの表れであると考えられる。この項目の結果は、全職員が真摯に受け止めなければならない項目であり、早急に改善する必要がある。今後、子どもたちの達成感や満足感がしっかり得られるような手立てを講じ、校内で話し合って実践していく。

結果を受けて

《学校が重点的に取り組んでいくこと》

《国語》

- ・ 日記やノート等を書く際、積極的に既習の漢字を使用するよう指導する。
- ・ 普段の漢字の学習から、漢字を使った短作文などを使用し、意味を考えながら読み、書く指導をする。
- ・ 読書の時間等を利用し、長文を読み、文章構成に慣れ親しませる。
- ・ 文章の中のキーワードやキーセンテンスを見つける指導をする。

《算数》

- ・ 文章から必要な情報を読み取り、簡単な図や絵でかけるようにイメージ化する指導をする。
- ・ 何分間、何分前、何分後などの用語を、日常生活の中で使用し、時間の感覚をつかめるようにする。
- ・ 面積の公式のように多数種類があるものを覚えるため、日頃から公式の必要な問題に触れるようにする。
- ・ 情報を取捨選択していくことができるよう、情報過多の問題に慣れるよう指導する。

《理科》

- ・ 理科の実験器具、用具の名前を指導者側がしっかりと呼称することや黒板等に記述することで、定着の支援をする。
- ・ 観察や実験の結果から、具体的な数値をだすなど根拠をわかりやすく表す場面を設定した指導をする。
- ・ 自分と周りの気付きの違いを捉え、違いを見いだす場面を設定した指導をする。
- ・ 習得した知識をより深く理解できるよう、習得した知識を使って日常生活に活かせるよう指導する。

《児童のみなさんに取り組んでほしいこと》

- ・問題を解くために、最後まで続ける努力、何かを書こうとする努力を続けてほしい。
- ・授業を大切にし、めあてを持って取り組んでほしい。
- ・習った漢字を忘れないよう繰り返し練習をする。文章を読むときに、漢字の意味を考えながら読むようにする。文章を書くときに、習った漢字を積極的に使うようにする。
- ・初見の文章をすらすら読み、内容を読み取ることができるよう、日々の音読を大切にすること。
- ・日常生活の中で、たす、ひく、かける、わるを使っていることを意識すること。
- ・日常生活の中にあるたくさんの情報から、必要な情報を選びだし活用する力をつける。

《保護者のみなさまに協力してほしいこと》

- ・今回の調査では「携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束をしたことを守っていますか」の項目で、家の人と約束を“守っている”と答えた子どもが約60%でした。現在、ネット等によるトラブルは増加傾向にあります。また、携帯電話・スマートフォンやコンピュータ、ゲーム機等を長時間使用する子どもは、正答率が低い傾向にあります。そして、保護者からの見た目と実際の子どもの様子との違いも見えています。携帯電話・スマートフォンやコンピュータ、ゲーム機等の使用について改めてお子さまと確認をしてください。
- ・情報を整理する力が高ければ高いほど、正答率も高い傾向にあります。日常生活の中にあるたくさんの情報の中から、本当に必要な情報を見つけられるよう、社会の諸問題について考えるきっかけを作っていただければありがたいです。